



興讓館

第48号

発行／令和元年8月1日
米沢興讓館同窓会
会報編集委員会
当会報の題字は、第12代
藩主 上杉齊憲公の書に
よるものです。



感謝状贈呈式



代表して挨拶を述べる
前同窓会長 大友恒則君

表彰式

平成三十年九月十五日(土) 十六時～十七時一〇分 グランドホクヨウ二階で平成三十年度同窓会総会が開催された。その席上、長年にわたり同窓会の運営にご尽力いただいた方々に小嶋彌左衛門会長より感謝状が贈呈された。

感謝状を贈られた方々

- 前同窓会会長 大友恒則 (昭和三十五年卒)
- 前同窓会副会長 前米沢支部長 早川正信 (昭和三十三年卒)
- 前同窓会常務理事 遠藤岩根 (昭和三十四年卒)
- 前同窓会監事 野口義人 (昭和四十五年卒)
- 前東京支部長 宮坂孝夫 (昭和四十一年卒)
- 前関西支部長 吉田 真 (昭和三十八年卒)
- 前県庁・教育委員会支部長 若月雅博 (昭和五十一年卒)
- 前山形支部長 堤 孝雄 (昭和三十四年卒)
- 前長井・西置賜支部長 松下鈺三郎 (昭和三十一年卒)

支部は同窓会の大きな支え 支部長会の充実を

米沢興讓館同窓会会長 小嶋 彌左衛門
(昭和四十二年卒)



日頃同窓会活動へお力添えいただき誠にありがとうございます。総会・懇親会担当学年の方々ご苦労様です。米沢興讓館同窓会はたくさんの方々の支えがあります。組織としてはかなり大きな規模だと思います。一年間各地の支部を回ってみて、支部はそれぞれに独立した組織だと思いました。各支部は支部長を中心に運営されています。今年から支部長会を充実していきたいと思っています。同窓会の様な組織活動は全体がまとまって力を合わせていくことが大切だと思います。

現在東南置賜地区の県立高校再編整備計画が進んでいます。同窓会として少子化という現実を受け留めてより良い結果を目指して行こうと思っています。月刊文芸春秋誌の令和元年六月号の『教育の本質は「藩校」のあり』に、興讓館が大きく取り上げられました。全国的な観点から見ても興讓館は藩校の代表的な学校だと認められている証左だと思います。これからも手を取り合って興讓館同窓会活動を盛り上げていこうではありませんか。



ごあいさつ

校長 柿崎悦子

同窓会の皆様には、日頃、母校の教育活動に深いご理解と多大なるご支援を賜り、心から厚く御礼を申し上げます。この四月に横戸隆校長の後任として小国高校より着任しました柿崎悦子です。本校には平成十六年より勤め、教頭としても同窓会の皆様にはお世話になりました。この春三度目の赴任となり、生徒と共に過ごした年月を振り返り懐かしさを感じながらも、校長として、輝かしい歴史と伝統を誇る米沢興譲館高校に奉職することに責任の重さを感じております。精一杯務めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

の持つ様々な能力を磨き上げて、他と協働する人間性豊かで「未来を拓く」力を具備するリーダーとなるよう教育活動を展開しております。

本校を含む県内三校に設置された「探究科」も二年目を迎えます。普通科、理数科、国際科の三学科を備える学校として、それらの学科の目標に沿って、SSH事業や学校設定科目、普通科目等を有機的に結び付けて、全生徒が高い志を持ち、その進路希望を実現できるようにキャリア教育を推進しております。また、現在進行している教育改革にスピード感を持つて対応するために、教員も学習指導方法や評価等についての研鑽に励んでいます。

今年、二〇六名の新入生を迎え新年度がスタートしました。生徒たちは、受け継がれてきた「興譲の精神」の下、日々の授業を第一に、部活動や自治会活動に一生懸命に取り組んでいます。現在スパーサイエンスハイスクール（SSH）事業が三期目となり、「いのちを尊び、新たな価値創造の志を持ち挑戦する生徒」として、若者らしく「未来を語り」、自身

職員一同、連綿と続く興譲館の不易を確認しつつ、進取の気概を持って生徒育成に励んでまいりますので、皆様にはこれまで同様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。興譲館同窓会の益々のご隆盛と、会員の皆様のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。



OUR TIME IS NOW
『平成から令和へ、いまを見つめて』

令和元年度同窓会総会・懇親会
実行委員長 佐藤 知由
(昭和五十九年卒)

令和元年度、同窓会総会・懇親会実行委員長を拝命いたしました、昭和五十九年卒の佐藤知由と申します。同窓会諸先輩方、後輩諸君が一堂に会する本会が素晴らしいひとときとなるよう、実行委員一同準備を進めて参ります。多くの同窓生の皆様の参加をお待ち致しております。どうぞよろしくお願い致します。

今年のテーマは、『OUR TIME IS NOW』平成から令和へ、いまを見つめて』です。我が興譲館は、一七七六年に細井平洲先生から「興譲館」と命名され、以来十九

もの元号を経て今に至っています。変わりゆく時代の中、私達個々の時間は常に前へ前へ進んでいきます。平成から令和へ、何も変わらないのかもしれませんが、でも何かがきつと変わらなくてはいけないのだと思います。今を見つめることで未来が見えてきます。「自他の生命を尊重する精神」「己を磨き、誠を尽くす精神」「世のために尽くす精神」この三つの興譲の精神は時代が変わっても脈々と受け継がれています。興譲館という同じ学舎で過ごした同窓生の皆様とひとつの時間を共有

出来ることを大変光栄に感じます。

今年の実行委員は、我々昭和五十九年卒を筆頭に、昭和六十三年卒、平成五年卒、平成十一年卒、平成十六年卒、平成二十一年卒の五学年が担当いたします。若い二十代、三十代の委員の諸君には興譲館同窓会の素晴らしさを、内から身をもって感じてもらえるのではないのでしょうか。四十代、五十代の委員は緊張感の中に誇らしさを持つて担当してくれていると思います。

どうぞ、来る九月十四日は、多くの同窓生の皆様にお越しいただき、今を、未来を大いに語り合っていただきたく存じます。我々実行委員一同、精一杯のおもてなしで皆様をお迎えできるよう、準備をいたします。当日、お目にかかれることを楽しみに致しております。



昨年興譲館OBマラソン
初参加しました。
—船坂峠—

教育活動紹介



「運命を分けた『一本』を糧に」^{かて}

総務課長 原田 知明
弓道部顧問 (昭和五十三年卒)

作家村上春樹氏が父との関わりを記したことで話題となった『文藝春秋』令和元年六月号に「教育の本質は『藩校』にあり」という特集記事が組まれ、本校が二ペー

まう。上位チームが一敗で並ぶ混戦。それでも、最後の山形中央戦を通常の力で勝てば、興譲館の団体インターハイ出場が決まる。多くの人が興譲館の優勝を確信したところが、辛くも九対八で勝利して三勝一敗で並んだ時、総的中数の一本差で、つかみかけた団体でのインターハイは夢と消えていた。

令和元年六月七日、県高校総体が地元米沢で開催され三年田中愛音(あのん)は、二年連続で決勝に臨んだ。決勝は、外した選手が順次除かれていく過酷な射詰め競争である。しかし、最後は、山形東高の鈴木ひかり選手との一騎打ちとなり、予選から十五連中した田中選手がみごと二年連続のインターハイへの出場を決めた。

翌日の団体戦も順調に上位五チームによる決勝リーグに進むところが、決勝リーグ第二戦で新人戦決勝の相手でもあった天童高校に十二対十一で苦杯を嘗めてし

まう。上位チームが一敗で並ぶ混戦。それでも、最後の山形中央戦を通常の力で勝てば、興譲館の団体インターハイ出場が決まる。多くの人が興譲館の優勝を確信したところが、辛くも九対八で勝利して三勝一敗で並んだ時、総的中数の一本差で、つかみかけた団体でのインターハイは夢と消えていた。選手は控えに下がると崩れ落ち、呼吸できないほどの鳴咽。掛ける言葉も失う。県内無敗だったチームも、全員がいつも好調だったわけではない。常に不調をカバーするような勝ち運があったように思う。県新人大会優勝。県選抜大会優勝。東北選抜大会優勝。東日本高校弓道大会準優勝。全国選抜大会予選二位通過。短い練習時間で本当によくやった。戦績は十分誇るに足る。しかし、全国上位を心に期しながら、最後の最後に県の段階で運命の一本差に泣いた。わずか一本、されど一本。過酷な現実だ。田中選手は団体を代表して

宮崎で戦うはずだ。

今年、本校では五十五分授業をノーチャイムで実施している。マネジメント能力を磨くためでもある。生徒は、始業までにちゃんと着席している。大したものだ。現在の弓道部も、下級生の指導から練習計画の立案まで、生徒が主体となり、顧問が承認するという原則で行っている。今年から週末の部活動は一日休み、平日も一日の休みを取るのが原則である。しかも水曜は七時限で、十六時四十五分までの授業だから、部活動時間は益々短くなっている。だからこそ生徒の自覚が重要になるのだ。思えば、最後の試合も、生徒の

自主性に委ね、自分は指導者としての責務を全うせずに逃げたのではないかと今でも自問する。しかし今は、生徒も私も未来に向けて忘れ得ぬ一本を与えられたのだと思う。勝利よりも負けに学ぶことが多い。これからの人生の各所に大切な一本の時が訪れるだろう。今日の一本の悔しさをその時に生かしてほしい。弱気に駆られそうな時、今が大事と思う時、この一本を想い出してほしい。受験でも、人生の重要な場面でも、正否を分ける「この一本」がある。運命を分ける「一本」を糧に、氣力を奮い起こして、局面を切り開いてほしい。



県新人個人優勝 横山 優理



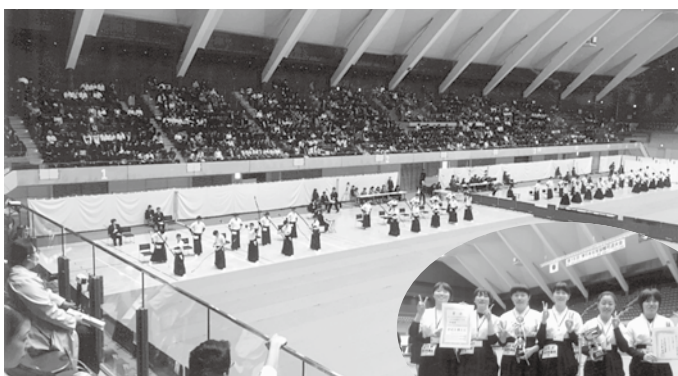
2年連続 インターハイ出場
田中 愛音



東北高校弓道選抜大会優勝



県新人優勝(男女個人・女子団体)



東日本弓道大会(高崎アリーナ) 準優勝

文武両道の大活躍

SSH
(スーパーサイエンスハイスクール)

〈台湾高校との交流〉

圧倒的『質問』力

三年一組 鈴木 沙耶加
(米沢三中出身)

三月七日、理数科三十四名で国立台湾師範大学附属高級中学の生徒と交流しました。最も印象に残ったのは授業体験です。想像以上の迫力です。ほとんどの生徒が質問のために「先生。」と声と手を上げました。その様子に圧倒されました。その質問の賜物なのか理解も行動も早く、驚きに溢れる時間を過ごしました。中には、自分たちと同じ高校生であることを実感した出来事もありました。週末のテスト勉強も抜かりなしです。

附中生も私たちと同じ高校生です。彼らのように、

質問への自分自身から湧き上がる興味や好奇心を大切にしたいと考えさせられる刺激のある交流でした。



〈探究活動〉

探究活動成果発表会

三年一組 佐藤 旭
(米沢七中出身)

五月二十二日に校内で探究活動成果発表会が行われました。私達三年生にとっては一年間行ってきたSSH活動の集大成となった大会でした。今回最優秀賞をいただき、全国大会に繋がったことをとても嬉しく思っています。

私達の班は濃厚溶液が希薄溶液に比べ沸点が高くなる原因について研究してきました。実験よりもその後の考察の方が難しかったですが、班員全員で最後まで諦めずに考え続けることができたことが成果につながったと思っています。また、山形大学の神戸士郎教授には多くの助言をいただき、更にNMRという貴重な実験装置を使わせていただき大変ありがた

く思っています。全国発表では私達の研究が多



◎体育部の躍進

平成30年度
弓道…

第37回全国高等学校弓道選抜山形県大会
女子団体1位

陸上…男子400mH

東北高校新人陸上競技大会 出場

水泳…女子4×100mメドレー

東北高校新人水泳大会 出場

女子4×100mフリー
東北高校新人水泳大会 出場

男子東北高等学校ホッケー選抜大会 出場
女子東北高等学校ホッケー選抜大会 第4位

弓道…女子団体
全国高等学校弓道選抜大会 出場
東北高等学校弓道選抜大会 優勝

フェンシング…
JOCジュニアオリンピックカップ全国大会
男子個人出場
JOCジュニアオリンピックカップ全国大会
女子個人出場

令和元年度
◇山形県高等学校総合体育大会
ホッケー…
男子団体《第2位》東北大会出場・第3位
女子団体《第2位》東北大会出場

フェンシング…女子団体《第2位》
弓道…女子団体《第3位》
弓道…個人

弓道…《第1位》田中愛音
フェンシング…《第1位》フルーレ 大西ひかる

水泳…《第1位》女子高飛込 戸田萌々香
3m飛板飛込 戸田萌々香
(以上東北大会出場)

陸上…《第2位》男子200m 佐竹智弘
(東北大会出場)

《決勝進出》男子3000m SSC 布施英太
4×100m
山本大輝・佐竹智弘・長 洸太・近野陽大
女子1500m 黒田 愛奈

《準決勝進出》
男子100m 佐竹智弘
400m 長 洸太
女子200m 井上美羽奈
400m 井上美羽奈

◇東北大会出場
フェンシング／エペ 我妻彩菜
卓球…ダブルス 土屋慶智・黒金創一郎

水泳…女子
800m自由形・400m自由形 尾形綺音

200mバタフライ・1000mバタフライ
佐原陸希
200m自由形・100m自由形 佐藤久莉
背泳ぎ200m 菅原美育
100m平泳ぎ 田村若菜
400mメドレー・400リレー・800リレー
弓道…田中愛音 個人準優勝
陸上…男子
4×400m
長 洸太・近野陽大・佐竹智弘・山本大輝

◎文化活動の躍進

【CSS】

第43回全国高等学校総合文化祭 佐賀大会
自然科学部門
「流れ場における細長いゲルの運動」
香田 駿 (3年1組)

【新聞・文芸】

第43回全国高等学校総合文化祭 佐賀大会
文芸・散文部門
「傘物語」
井上 桜希 (3年2組)



同窓生のみなさまのご支援をよろしくお願いします！

米沢興讓館同窓会

令和元年度

総会・懇親会のご案内

スローガン

「OUR TIME IS NOW」

「平成から令和へ、いまを見つめて」

一、日時 令和元年九月十四日(土曜日)
二、会場 グランドホテルヨウ(市内金池二丁目)
一、日程 ①総会 午後四時
②懇親会 午後六時

米沢興讓館同窓会会長

小嶋 彌左衛門

令和元年度同窓会総会・懇親会実行委員長

佐藤 知由

米沢興讓館高等学校

創立一三三年記念式典・記念講演

一、日時 令和元年九月十九日(木曜日)

二、会場 興讓館高校 記念講堂

一、日程

①式典 午前九時二十五分～午前十時

②保護者・同窓生入場

午前十時～午前十時十五分

③記念講演

午前十時二十分～午前十一時五十分

一三三年記念講演

演題 「世界の言語」

講師 秋田大学国際資源学部教授

三宅 良美氏

(昭和五十二年本校卒)

【講師略歴】

東京外語大インドネシア語科卒業

東京都立大学大学院人類学修士課程修了

米ミシガン大学留学後、社会言語学専攻

令和元年度 同窓会総会・懇親会 実行委員会

「あいさつ」

葉っぱの会会長 佐藤 詠一

(昭和六十三年卒)



母校卒業から三十年以上が経過し、私たちは満五十歳となる年度を迎えました。この記念の年度に、同窓会大懇親会の当番幹事を務

めることは、同窓会との大切な縁であり、多くの先輩方へのご恩返しのお機嫌であると考えています。私たちは懇親会運営全般を担当いたします。たくさんの方々に楽しんでいただけるよう、精いっぱい努力いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和元年、新たな気持ちで同窓会に参加しよう。

伊藤 好宏

(平成五年卒)



十数年前、初めて同窓会に参加した際、参加者の数の多さ、年代

の幅広さに驚きつつ、校歌・応援歌の斉唱に、心地よさを感じると共に胸が熱くなったのを覚えています。この感覚は、母校興讓館への思いを共有できる同窓会だからこそ経験できるものだと思います。

平成五年卒の皆さん、興讓館時代に思いを馳せるとともに、「令和」の新しい時代に突入した今年、新たな気持ちで、恩師・先輩・同級生・後輩に会いに来ませんか。多くのご参加をお待ちしております。

皆さんの参加を

お待ちしております

小嶋 健市郎

(平成十一年卒)



元号が変わり、同学年の皆がアラフォーになり、色んな節目が重

なる時期ですね。今年の同窓会には三連休の初日ですので、地元の方は勿論、遠方の方も帰省を兼ねて是非ご参加ください。恩師の先生方も学年同窓会にご招待しますので、懐かしう楽しい会になるかと思ひます。皆さんの参加をお待ちしています。

ぜひ、みんなで

同窓会に行きましょう

高橋 直也

(平成十六年卒)



今回、平成十六年卒の代表を務めることになりました高橋直也で

す。私達の学年が母校を卒業して十五年が経過した今、働き盛りの年齢を迎え、仕事や育児など、それぞれの舞台で忙しくも充実した毎日を送っていることと思ひます。同時に、高校時代の友人と会って話す機会も少なくなっています。思い出話や近況報告するだけでも楽しいものです。忙しい日々の息抜きに、新しい刺激を求め、ぜひ、みんなで同窓会に行きましょう。

懐かしい話に

花を咲かせましょう

土屋 岳

(平成二十一年卒)



今年度、幹事学年になりました平成二十一年卒の土屋岳です。

私たちの学年は、今年が初の幹事学年になり、分らないことばかりですが諸先輩方から教えてもらいながら頑張りたいと思ひます。また、今年は私たちの学年も多くの方が同窓会総会・懇親会に参加し、会を盛り上げられればと思ひていますので、ぜひ多数のご参加を期待します。そして、令和に変わった今年だからこそ同級生と高校時代の懐かしい話に花を咲かせましょう。



平成最後の同窓会総会・懇親会を 振り返って

平成三十年度同窓会総会・懇親会実行委員長

遠藤 友紀雄

四月より企画をし、五月十七日の第一回実行委員会ははじめ、全七回の実行委員会を経て九月十五日を迎えました。実行委員会各学年の皆様のご協力に感謝申し上げます。何につけても、当日七〇〇名を超える同窓生が会場に集まって頂いたことが今回の大きな収穫ではなかったでしょうか。

席の配分や進行、多少の「現場合わせ」はありましたが、会場の和やかな雰囲気は毎年のこととはいえ企画して良かった、と思えるものでした。総会参加を呼びかけたところ、例年よりも多くの参加を頂きました。これからの同窓会運営にきっかけが出来たと思います。

とはいえ、不安が無いわけではありません。毎年話題にのぼりますが、若い卒業生の参加をこれからもっともっと増やしていかなければ、同窓会の活性化や存続がなされません。また、この形式の同窓会懇親会が未来永劫に存続できるという事ではないと思います。より良いやり方がな

いのか、という事も毎年考えなくてはと思います。

ただし、「変える」ことには大きなエネルギーと周囲の理解、段取りが必要となります。「変わり続ける



平成30年度同窓会総会の様子 (平成30年9月15日)



リードする応援団



挨拶する遠藤友紀雄実行委員長

ことが生き残る事だ」という言葉もございます。五十八年卒のテイストを多少は盛り込みました。「変える、変わっていく」ことを忘れてはいけないと思います。後輩諸兄に今後を託し今年度実行委員長の感想いたします。ありがとうございました。



懇親会風景



挨拶する小嶋会長と各支部長



旗手を務める小林昇市君
(昭和53年卒)

同窓生の今



若い世代のみなさんに伝えたいこと

青木 薫氏

(昭和五十年卒)

一九七五年に興譲館を卒業し、京都大学で理論物理学を専攻したのち、現在は翻訳をやっている青木薫です。私はざっと四十五年前の在校生ですから、ご存知のように、当時は女子が少なかったです。三年生のときの理系クラスでは、女子は五人でした。興譲館では、女子だということではないな思いをしたことは一度もありませんでしたが、中学時代は、担任から「女の子が興譲館に行つてどうするの?」と言われたり、別の先生から「女子は、中学までは数学や理科ができて、高校では通用しないからなあ」と言われたりしました。

このような発言は、当時すでに少し時代遅れだったので、私は内心、「今どき何を言っているんだろこの先生は」と思っていました。私に關しては、実害はなかったと言えらると思ひます。とはいへ、当時はそんな社会的な圧力や、あたかも生物学的に基礎があるかのような偏見は、いたるところに存在していたのです。

それからざっと半世紀が過ぎましたが、女性のたいへんさは、今も形を変えて厳然と存在しています。医学部入試における女性差別は記憶に新しいところですし、世界のジェンダー不平等に関する分析結果では、日本は百四十九カ国中、なんと百十位で、G7ではダントツ最下位でした。今日それが良くないことだというのが社会の「建前」になったのは喜ぶべきことですが、その「建前」と「そうは言っても女は…」という「本音」のあいだの大きなギャップを埋めていく努力が、これからまだまだ必要とされています。

ただ、とくに若い世代のみなさんに、ぜひともお伝えしたく思ふのは、その努力を、女性から男性への異議申し立てとは受け止めないでほしいということです。女性にも、男性にも、そう思つてほしくありません。なぜなら、アンフェアな社会は、一見してわかる不利益を被っている層(今の場合は女性)にとって生きにくい社会であるだけでなく、一見すると利益を得ているはずの層(今の場合は男性)にも、目に見えにくいかたちでゆがみをもたらし、生きにくさを隠し持った社会だと思ふからです。

世代を超えて、性別も越えて、よりフェアな社会をみんなで目指していけたらいいなと思ひます。とくに、若い世代の同窓生のみなさまが、今よりもフェアな社会で、納得のいく生き方をされますよう、心より祈りしています。

◇プロフィール(旧姓 樋口)

京都大学大学院博士課程修了 理学博士 二〇〇七年度日本数学会出版賞受賞

翻訳書

「フェルマーの最終定理」新潮社

「暗号解説 ―ロゼッタストーンから量子暗号まで」新潮社
「完全なる証明」文藝春秋 など多数



「興譲館の学年登山は懐かしいですが、近年、山歩きを始めました。青森の自宅から近い八甲田を歩いていたら、冒険家の三浦雄一郎さんとバッタリ!」

同窓生を訪ねて



「山形座瀧波」再生プロジェクト

南 浩史さん (昭和五十七年卒) 訪問

国道十三号線沿いに樺の重厚な門構えの赤湯温泉「山形座瀧波」がある。門をくぐり趣のある曲り屋の玄關を入ると、赤、黄、白の北欧のスワンチェアが築三百年の大庄屋屋敷に彩りを加え、とても印象的だ。日本建築を用いた和モダンな大広間の落ち着いた雰囲気の中で、社長の南さんとお会いした。

南さんは、平成二十七年、三十五年ぶりに故郷に戻り、実家である「いきかえりの宿瀧波」を再生させるためにリノベーションし、平成二十九年にリニューアルオープンさせた。

「興譲館同窓生の方に是非ご来館いただきたい。特典も考えております」ととても気さくにお話くださった。高校時代を偲うと、「応援団に明け暮れる日々だった。数年前、OB会の壇上でエールを披露したが意外と声が出た(笑)。山根先生や五十嵐京子先生が教鞭をとられた時代。入学当初決して成績は良くなかったが、東大を目指す友人とともに学ぶ中でいつしか自身の目標となつていった」。東大理科II類に合格し、卒業後は当時の建設省に入省、八年勤務する中で奥様との出会いがあつた。養子として長崎の大島造船所に勤務後に社長として経営を担い、国内、海外を飛び回る日々を送つた。この豊富なキャリア・経営手腕をもつて、再生プロジェクトの先導役を担われている南さん。館内をご案内いただいた。シックな廊下を進んでいくと、オープンキッチンがあり、置賜盆地の恵みである山菜、有機野菜など旬の素材や肉が、ライブ感覚で料理長からお客様に提供される。地酒や赤湯のワインも各種取り揃えられて、ここでも味わえないものばかり。調味料も本醸造にこだわっている。客室は、築三百年の米蔵の栗の木の自然に曲がつた梁や、大正時代の旧小学校の柱や梁をむき出しで使うことにより趣きを感じられる。一室ごとに蔵王石、檜の露天風呂があり、「生まれたての十割源泉」を楽しめる。「置賜地域・山形のショールーム」となつて、盆地だからこそ味わえるたくさんの上質なものや遠くから来られた方々に紹介していきたい」と抱負を語る。

また、宿泊者のココロに残るアクティビティもさまざま用意されている。早朝には宿から近い十分一山に、兄の須藤清市さん(昭和五十年卒)が無料シャトル便でお連れする。絶景を見ながらのコーヒータ임眼下に広がる置賜の風景には、単純に「泊まる」だけではない価値がある。

さて、夢に向かい挑戦している母校の在校生へ伝えたいことは…。「若いうちに、なるべくより広い外の世界を見て欲しい。東京という世界、日本という世界、世界という世界がある。広い視野を持つてチャレンジしてもらいたい。そして、ありきたりだがnew things」という言葉を贈りたい。また、将来はぜひ社会に貢献してほしい。私はお客様をお連れして伝国の杜に何度も行き、博物館常設展での上杉鷹山のショートムービーを六十回余も観た。やはり「伝国の辞」で鷹山公が語つた「藩のために存在・行動するのが君主である」との言葉通り、在校生の皆さんも社会のために行動する人間になっていただきたい。

二十五年ほど前、新しい校舎で在校生に話をしたが、その一人が今は南陽市選出の県議会議員になられていた、とのこと。南さんには、地域そして母校の発展のためにますますのご活躍を期待したい。



支部だより

関西支部総会・懇親会
新体制で開催される!!

第36回 米沢興譲館高校同窓会 関西支部総会

令和元年5月18日 於:T'S GARDEN 東天紅

中央左・柿崎悦子校長 中央・中川勉関西支部支部長 中央右・小林擴二同窓会副会長

「ああ興譲 興譲のわれらが心」

興譲館同窓会関西支部支部長 中川 勉

(昭和五十一年卒)

新任の校長先生をお迎えし、参加者からはご自分の年齢も忘れて「若いね」の声が会場のあちこちから聞こえ、おかげ様で大変和やかな会になりました。遠方から大阪までお出でいただいた柿崎悦子校長、小林擴二同窓会副会長にあらためてお礼申し上げます。

この度同窓会関西支部支部長を仰せつかりました昭和四十一年卒の中川勉です。関西支部は東海地方から西の沖繩までのエリアをカバーし、現在一六七名の名簿を基にしています。しかし、残念ながら近年卒の方々の氏名・住所が分からず案内することが出来ておりません。皆様にお願ひです、是非関西支部エリアにお住まいの方をご存知でしたら、同窓会本部事務局まで一報ください。

総会後は、毎年同窓の仲間による講演。今年は「一本の道を歩いて〜ピレネーを越え、サンチャゴまでの七八〇km〜」と題して昭和四十二年卒上野きよさん「七十歳になるこれからの時間、一人で歩くことによつてなにか考えることがあるかもしれない」と、四十日間巡礼の道を歩き通された過酷で厳しい道のりを動画も交えて語っていただきました。今年も同窓会の三日後に出席し、再度歩かれるとのこと。びつくりですね。

今年度の三役は私と、副会長に佐藤和栄(S四十二)、幹事長 神尾仁(S四十一)、事務局長 福士明博(S四十三)が務め、他幹事など二十一名で運営します。

同窓会の醍醐味は、自分の現年齢を忘れさせてくれることにあるのではないのでしょうか。乾杯の後は先輩も後輩もなく、初顔合わせでも一言交わせれば同じアクセントを感じ取り、座は一気に盛り上がり、「世のために尽くさんこれぞ ああ興譲 興譲のわれらが心」と斉唱し、今年も定例の二次会にはほとんどの出席者が繰り出すのです。

米沢支部報告

事務局長 栗林 雄二

(昭和五十一年卒)

米沢支部は齋藤榮助支部長(昭和三十八年卒)の下、毎年四月に観桜会を兼ねた総会、秋には講演会と芋煮会を兼ねた懇親会を行っています。旧校舍跡地での観桜会は、その年の積雪状況や当日の風の強さ等天候に左右され、桜咲く木の下での開催が難しいこの頃です。秋は先輩方から様々なテーマで、一時間ほどの講演をお聴きしてからの芋煮会を行っています。いずれの会も三十人前後の方々にお集まり頂き毎回楽しくやっております。旧校舍跡地での開催という事もあります、若い方々の参加をお待ちしております。



米沢支部の懇親会

東京支部報告

幹事長 樋渡 三保子

(昭和四十年卒)

令和元年七月十三日(土) ホテルニューオータニで、第五十七回米沢興譲館同窓会東京支部総会・懇親会が開催されました。今年のスローガンは、令和元年にふさわしい「はばたけ未来へ」です。御来賓として本校から小嶋彌左衛門同窓会会長(S四十二年卒)、鈴木基同窓会副会長(S四十九年卒)、柿崎悦子母校校長、小島長五郎体育文化後援会会長(S四十四



東京支部の懇親会

年卒)が出席されました。また東京支部の特色でもあります。横の連帯や様々な情報交換も含め、御来賓として宮崎県高鍋高等学校在京同窓会、置賜農業高等学校、米沢工業高等学校、米沢東高等学校、山形東高等学校、山形南高等学校、山形商業高等学校、寒河江高等学校、新庄北高等学校、鶴岡工業高等学校、鶴岡北高等学校、神奈川湘南高等学校の各高校同窓会役員の方々、県人会関係で山形県人東京連合会、東京東根会、東京川西会、東京南陽会、東京飯豊会の会長も出席されました。

総会に先立って横山彰人東京支部長(Ｓ四十二年卒)の挨拶、小嶋彌左衛門同窓会会長の祝辞、柿崎悦子校長の母校近況報告。大滝則忠有為会会長(Ｓ三十八年卒)の挨拶のあと、総会の議事に入り、平成三十年度会務報告、会計報告が樋渡三保子幹事長(Ｓ四十年卒)から報告があり、令和元年度予算案を含め可決承認されました。嶋貫昭雄副支部長(Ｓ三十七年卒)の閉会の挨拶で総会は終了しました。総会終了後は、バイオリンミニコンサートです。毎年皆様の心に残る楽しい企画と考えておりますが、本年は早川文乃さんのバイオリンの演奏です。早川さんは平成五年卒業で国立音楽大学を卒業後、各方面で活躍しているバイオリニストですが、この日はクライスラー、サラサーテ作曲の「美しきロスマリン」、「愛の喜び」などなじみの深い曲の演奏でした。演奏の間のトークも含めバイオリンの奥の深さと美しい音色に酔いしれたひとときでした。

演奏後は在校時応援団の山口宏君(Ｓ五十五年卒)、五十嵐良輔君(日元年卒)のリードで興譲館校歌の斉唱。小島長五郎体育文化後援会会長、高鍋高等学校在京同窓会久保昌也副会長が祝辞を述べられた後、米沢興譲館高等学校第三十四代校長五十嵐京子先生の乾杯で懇親会が始まりました。テーブルには美味しい料理や、高鍋高等学校在京同窓会から頂いた貴重な焼酎「百年の孤独」、小嶋同窓会会長からの「東光」や東の麓酒造の「東の麓」など故郷の地酒が並び、歓談の輪が広がりました。後半の抽選会では故郷のさくらんぼや茄子の漬物、地元のお酒などが景品として提供され、和やかで楽しい時間を過ごしました。

最後は再び応援団のリードのもと自治会歌、応援歌を声高らかに歌い、それぞれの年代が興譲館時代に戻り心ひとつになった時間でした。恒例の万歳三唱は最年少学年、鈴木豊臣君(日十三年卒)。近藤郁子副支部長(Ｓ三十七年卒)の閉会の挨拶で盛会のうちに終了しました。

懇親会終了後の二次会はホテル内のお店で、小嶋同窓会会長はじめ高鍋高等学校在京同窓会の皆様や多くの会員が出席し、夜遅くまで飲み語り合いました。

宮城支部報告

宮城支部長 田 林 眺 一

(昭和四十一年卒)

宮城支部の最近の活動状況として、平成時代の最後に開催されました宮城支部総会について述べさせていただきます。活動状況報告とさせて戴きます。支部総会は平成三十年十一月十日に同窓会会長の小嶋彌左衛門様、興譲館高校長の横戸隆先生をお招きして二十名の会員参加を得て開催されました。

記念講演を東北文化学園大学医療福祉部リハビリテーション学科教授の渋谷直樹先生に「道に迷わず、街を歩く」というテーマで講演していただきました。参加者の多くの方はある程度身に憶えるテーマであり、大変興味深く拝聴させていただきました。令和元年の支部総会は十月十九日に開催する予定にしており、会員同士の連携強化と多くの参加者があることを期待しています。昨年の支部総会時の集合写真を貼付したので、拝見いただき、何らかの思い出にしていただければと思います。



宮城支部の懇親会

県庁支部報告

同会会長 山 川 秀 秋

(昭和五十三年卒)

当会は、山形県庁及び教育委員会等に所属する職員で村山地区に勤務する者で組織しています。発足は昭和四十六年です。会員数は一〇二名で、歴代会長と県議会議員の方々には顧問をお願いしています。会員相互の親睦を目的として、①六月の総会、②二月の立春懇談会、③その他会員の親睦を深め、同窓会の発展を図る事業を実施しています。今年の総会は六月七日に開催しました。小嶋同窓会会長、柿崎校長、船山現人県議にもご臨席いただき、母校の近況

や地元置賜に関する最近の話題についてのお話をお聞きしました。総会は、母校に思いをはせ、発展を願う機運を高める貴重な機会です。興譲の精神を受け継ぎながら、時代を先取りする特色ある取り組みを進めている興譲館。「人みな命をあげめ」「世のために尽くす」という言葉が校歌に込められている興譲館は我々の「心の鏡」です。同窓生、先輩後輩のつながりを大切にして、この同窓会が未来永劫続いていくことを願っています。

山形支部報告

幹事長 横 井 洋 子

(昭和四十年卒)

花見酒、納涼酒、月見酒と季節を愛でる集いを催して「興譲の絆」を結んでいます。如何せん、若い人の参加がいまひとつで参加者の常態化も見え始めています。全く新しい手法で支部の運営をやってみよう、と事務局で話をしているところですが、名案は浮かびません。どなたかご教示下さい。どの同窓会でも同じ悩みを抱えています。興譲の歴史「興譲の心」「興譲の絆」はやはり伝え続けていかなければならない、と考えています。

高畠支部報告

事務局長 八 卷 裕 一

(平成元年卒)

令和元年七月五日(金曜)、高畠支部としては平成二十年以来の支部総会・懇親会をよねおりかんこうセンターにて開催。当日は、小嶋彌左衛門同窓会長、柿崎悦子校長先生にご臨席いただき、総勢六十名近い同窓生が参



「万歳三唱」にて会を締めくくりました

加して開催されました。会場は、学生時代の思い出話やそれぞれの近況報告、懐かしい応援歌の斉唱など大いに盛り上がり、今回の開催を約束して散会となりました。

川西支部報告

川西支部長 金子 勤
(昭和三十四年卒)

平成三〇年度川西支部総会を十二月七日割烹喜楽で開いた。出席は二二名。決算・予算承認の後、町生涯学習課の鈴木明里さんより本町出身の英文学者高梨健吉について講演をいただいた。本校創立一三〇周年を機に、十数年休止していた支部を復活。年一回懇親の場を設け、世代を越えた交流を図っている。

小国支部報告

小国支部長 小林 新太郎
(昭和四十四年卒)

高橋清人支部長リーダーシップのもと、超お元氣な先輩の激励もあり、このところ毎年支部総会を開催することが例となりました。平成最後の総会は、十月十九日、講師に上杉博物館長、佐藤広明氏（米沢興譲館三十六代校長）をお迎えし、懐かしい学生時代の話、近年の学校の様子などの話を講演頂きました。その後の懇親会は世代を越えて大いに盛り上がり、応援歌、自治会歌、校歌と広がっていきました。



小国支部の懇親会

入会式

平成三十一年三月一日（金）午前九時より米沢興譲館高等学校講堂にて鈴木基同窓会副会長の司会のもと米沢興譲館同窓会入会式が行われた。

藤倉万里子副会長の、壺と石を例にした人生の優先順位の逸話を盛り込んだ開会のあいさつに続き、小嶋彌左衛門会長から「卒業おめでとう。本日同窓会に入会していただいた。同窓会は在校生の支援に努めている。みなさんの協力も宜しく御願いたい。みなさんはバラバラになるが各地に同窓会支部がある。同窓会を活用していただきたい。そして同窓会をより盛り上げて頂きたい。」とお祝いのあいさつがあった。

そして磯部道昭常務理事から同窓会規約をもとに興譲館同窓会の説明があった。

続いて、小嶋会長より奥山さくらさんに記念品（印鑑セット）が授与され、その後一九六名の新入会員を代表して曾根京香さんが、三年間の思い出、そして同窓会の支援への感謝と同窓会会員としての抱負と決意を述べた。その後、各クラスの学年理事計十一名に委嘱状が手渡された。最後に佐野隆一副会長による閉会のあいさつで入会式を終了した。



入会式風景



代表して挨拶する曾根京香さん

平成三十一年卒 学年理事

一組 花輪みやび	矢ノ目 樹
二組 高橋 春香	船山 俊介
三組 佐藤 豪郎	松田 莉歩
四組 横山 可依	松村 結
五組 安達 修平	佐竹 里緒
学年代表理事 二組 二宮 隆平	



委嘱状を手渡された学年理事の皆さん

◎平成29年度 同窓会会計決算書

(会計年度 平成29年9月1日～平成30年8月31日)

収入の部

(単位：円)

項 目	予算額	収入額	増減(△)	備 考
繰越金	1,130,848	1,130,848	0	前年度繰越金
入会金	1,400,000	1,379,000	△ 21,000	7,000円×197名
年会費	2,300,000	1,650,000	△ 650,000	
過年度会費	0	600,000	600,000	昭和58年卒・昭和59年卒・平成9年卒
雑収入	152	54,815	54,663	130周年記念誌売上・同窓会名簿売上・預金利子
計	4,831,000	4,814,663	△ 16,337	

決算額

収入額 4,814,663円 - 支出額 3,125,948円
 = 残額 1,688,715円 (次年度へ繰越)

○資金の残高

= 米沢信用金庫本店営業部 普通預金 1,688,715円

○財政安定積立金残高

= 同上 同上 500,365円

○前受会費残高

= 同上 同上 2,820,574円

◎平成30年度 事業計画

①母校振興発展に必要な事業

②会員の親睦に関する事項

③会報の発刊

④その他、目的達成に必要な事項

◎平成30年度 同窓会会計予算書

(会計年度 平成30年9月1日～令和元年8月31日)

収入の部

(単位：円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
繰越金	1,688,715	1,130,848	557,867	前年度繰越金
入会金	1,372,000	1,400,000	△ 28,000	7,000円×196名
年会費	2,300,000	2,300,000	0	昭45年～平21年まで5万円(40学年) 昭35年～昭44年まで3万円(10学年)
雑収入	285	152	133	預金利子
計	5,361,000	4,831,000	530,000	

前年度からの繰越額

○財政安定積立金

= 米沢信用金庫本店営業部 普通預金 500,365円

○前受会費

= 同上 同上 2,820,574円

支出の部

(単位：円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
運営費	1,307,000	1,262,000	45,000	
会議費	80,000	50,000	30,000	理事会等の会議費
通信連絡費	50,000	50,000	0	郵便切手等
需用費	100,000	100,000	0	慶弔・事務用品
人件費	1,077,000	1,062,000	15,000	人件費等1,027,000+50,000(9月手当)
事業費	2,174,600	1,956,720	217,880	
一般事業費	1,200,000	1,000,000	200,000	各支部総会・会報送料補助・HP運営費・総会補助金等
母校活動補助金	300,000	300,000	0	高鍋高校交流事業(訪問)等
卒業記念費	264,600	306,720	△ 42,120	記念品代(196名分)
表彰費	60,000	0	60,000	永年勤続者・前支部長・前退任役員
会報費	350,000	350,000	0	印刷費等
財政安定積立金	800,000	0	800,000	
財政安定積立金繰入	800,000	0	800,000	将来の収入不足や支出増加に備える準備金
予備費	1,079,400	1,612,280	△ 532,880	
予備費	1,079,400	1,612,280	△ 532,880	次期繰越金が多額になる場合には、財政安定積立金に振り替えることがある
計	5,361,000	4,831,000	530,000	

米沢興譲館同窓会本部・支部

()は卒業年

◎本 部 〒992-1443 山形県米沢市大字笹野1101
米沢興譲館高校内 ☎0238-38-4741
会 長 小嶋彌左衛門(S42)
副 会 長 小林 擴二(S36) 佐野 隆一(S47) 鈴木 基(S49)
藤倉万里子(S53)
監 事 江部 寛(S48) 土田 一成(S51) 松田 純一(S56)
顧 問 高野 譲(S29) 大友 恒則(S35)
常務理事 磯部 道昭(S44)
副常務理事 川島 良範(H6)
常任理事 加藤 英樹(S53) 小池 忠宏(S54) 益子 光子(S55)
相田 晃輔(S56) 高橋美和子(S57) 佐藤 知由(S59)
佐藤 詠一(S63) 安部 徳朗(H2) 平山 順一(H4)
佐藤 美洋(H10)

◇米沢支部
支 部 長 齋藤 榮助(S38)
〒992-0045 山形県米沢市中央1-7-30
☎0238-22-4140

◇東京支部
支 部 長 横山 彰人(S42)
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-3-23
☎03-3348-2808 fax03-3348-2829

◇関西支部
支 部 長 中川 勉(S41)
〒606-8024 京都市左京区修学院千万田町5-84
☎075-701-9121

◇宮城支部
支 部 長 田林 暁一(S41)
〒981-0954 宮城県仙台市青葉区川平2-17-28
☎022-279-8951

◇山形支部
支 部 長 後藤 寛(S40)
〒990-2483 山形県山形市上町5-1-21
☎023-645-4420

◇高島支部
支 部 長 鈴木 征治(S33)
〒992-0344 山形県東置賜郡高島町大字深沼12-5
☎0238-52-1777 (事務局長 八巻裕一(H1))

◇川西支部
支 部 長 金子 勤(S34)
〒999-0121 山形県東置賜郡川西町上小松2810-3
☎0238-42-4522

◇赤湯支部
支 部 長 佐藤 有弘(S37)
〒999-2231 山形県南陽市二色根373
☎0238-43-6660

◇宮内支部
支 部 長 山水 克美(S38)
〒992-0472 山形県南陽市宮内3172
☎0238-47-7055

◇小国支部
支 部 長 小林新太郎(S44)
〒999-1351 山形県西置賜郡小国町大字小国町172
☎0238-62-2362

◇長井・西置賜支部
支 部 長 齋藤 道郎(S42)
〒993-0035 山形県長井市時庭2306 サンリット化成㈱
☎0238-88-9632

◇県庁・教育委員会支部
支 部 長 山川 秀秋(S53)

◇ニューヨーク支部
*Director & Gen.Manager:EBE TAKASHI(1959 Grad)
AD:525 RIVERDALE AVE(Rm5G)YONKERS N.Y
10705 U.S.A.
Phone : 1-914-963-1250(Answering24h working)
(FAX:also available)

◎校内同窓会役員
理 事 堀江 昭浩(S54) 原田 知明(S53)
幹 事 稲村 邦彦(S57) 石黒 宏治(S55) 船山 洋子

編集後記

◇東京支部総会に参加してきました。若い卒業生の参加が少ない現状に同窓会の将来に不安を感じました。小嶋同窓会長は支部がまとまって力を合わせることが同窓会には大切であるとおっしゃっています。支部の活動、卒業生の活躍を紹介し、若い会員に同窓会に少しでも関心を持ってもらえるような会報にしようと心掛けています。「米沢興譲館同窓会」と入力してホームページもご覧ください。(H.S.)

◇前号から会報をリニューアルし、多くの皆さんに原稿をお寄せいただき充実した紙面になりました。興譲館同窓生には、本当に各方面で活躍されている方々がたくさんいらっしゃることに驚いています。今後も多くの方々を紹介してまいりますので、各学年の方からも活躍されている同窓生の情報をお知らせいただければ幸いです。(M.I.)

◇母校着任5年目。時が巡っても興譲館の伝統は受け継がれています。今年11月23日、我が学年も還暦の会を行います。(T.H.)

◇会報をご覧になり、母校を懐かしんだ方、青春時代の思い出を探しに米沢を訪れてみませんか。(M.Y.)

◇今年も同窓生へのインタビューをさせていただきました。活躍する同窓生の姿を身近で拝見し、とても誇らしい気持ちになりました。(S.Y.)

◇毎度執筆いただいております同窓生の皆様に感謝し、多くの同窓生の方に楽しんでいただけるように期待しております。(Y.K.)

米沢興譲館同窓会会報編集委員会

委員長／鈴木 基(S49)
委 員／磯部 道昭(S44)・原田 知明(S53)・山口みどり(S60)
横山 昭子(S61)・川島 良範(H6)